

# ミュージアムタワー京橋

## MUSEUM TOWER KYOBASHI

日建設計  
NIKKEN SEKKEI

### 街・環境・アートに開かれた 新時代の超高層

東京駅前、京橋に建つ、ハイブリッド賃貸オフィスと美術館からなる超高層ビルである。1951年当時の最先端建築であった旧プリンスホテルを同地に建てた創業者石橋正二郎の哲学を継承し、社会環境と技術の先進をデザインで体現した新たな価値創造が求められた。

自然環境や地域への影響力の大いなる大型建築として、その社会的使命を最大限に果たすことをビジョンの1つに計画した。デザインと統合された最先端技術により環境負荷を削減し、環境や街とながら、「開放系の超高層」を目指した。

これは、都心部の気候・地域・文化を精練に採り、都市空間や人のアクティビティを内に取り込むことで、外部環境と積極的につながる内部を持つ、環境や街に開かれた建築である。街つくり視点でも、接点地区と共同で行った都市計画で「街中に開かれた芸術・文化拠点の形成」を核としたエリア全体をデザインし、建築を超え、積極的に都市を拡張する思想を持つ。

本計画における環境・設備と建築の統合デザインコンセプトは、次の2つに集約される。

・「ART × ENGINEERING × ARCHITECTURE」  
体感する審美性 (ART) を、環境・設備技術に基づく工学・工法デザインとして建築へ昇華

・「DYNAMIC × DETAIL」  
超高層ならではの都市レベルでの工夫 (Dynamic) から、1/1の物レベルでの工夫 (Detail) まで、一貫性・合理性を持つ統合的デザインの追求

この建築で目指したのは、環境デザインの豊かな探求による、街とアートがつながり、働くことを刺激し、文化・芸術を楽しむ体験の構築である。



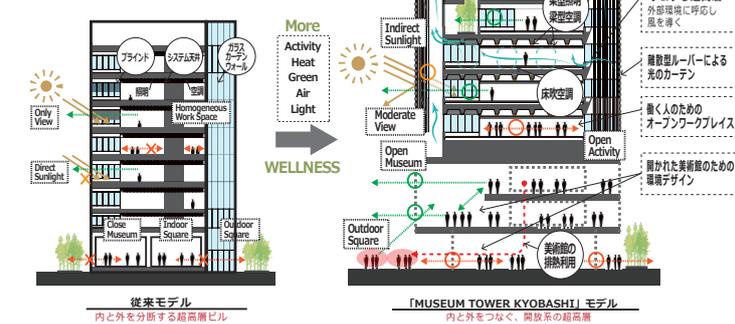
**Skyscraper Opens to the City, the Environment, and Art**  
The integrated design concept of the environment, MEP, and architecture can be summarized as follows:  
「ART × ENGINEERING × ARCHITECTURE」 Sublimation of aesthetic experience into architecture based on environment and facility technologies.  
「DYNAMIC × DETAIL」 Pursue a cross-sectional design with consistency, rationality, from dynamic items to full-scale details.  
Large buildings in urban areas tend to be closed to the external environment. This project integrates the design in every part of the building, and through the high-rise, to create a skyscraper that opens up to the city, the environment, and art.



## 環境デザインによる「開放系の超高層」

都市部の大型建築は、人のアクティビティや環境要素を内外でつなぐことには様々な難しさがあがり、閉じられた姿となりがちである。超高層は、高層化・大規模化による建築技術・工法上の難易度、経済性、高い環境基準への達成が加わり、外部環境をほとんど遮断し内部に良好な空間を作る傾向が強い。大規模再開発は、本来周辺の街とながらを持つべき低層部は取捨施設が並び、公共空間とは隔りがある場合が多い。

本計画では、低層部から高層部まで、あらゆる部位で環境・設備の要素技術導入を超えたデザインの統合を行い、広義・狭義の環境デザインによる開放系の超高層を次世代モデルとして構想している。



## 環境・設備 × 建築の統合デザインコンセプト

「ART × ENGINEERING × ARCHITECTURE」  
アーティゾン美術館のコンセプトである「創造する体験」は、美術館・オフィス・広場の用途区分や、設備・構造・構法・施工のエンジニアリング技術を横断的に超えた、「ミュージアム」タワーのデザイン思想の核を成す。物としての美しさ、応答する感性を、最先端技術により体現する。

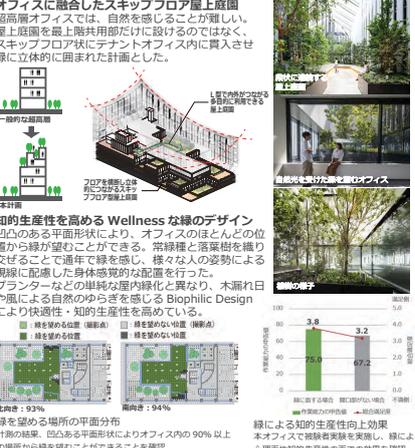


「DYNAMIC × DETAIL」  
都市・建築・環境は、誰かが身体感覚で身近に認識可能なマイクロなスケールと、地球環境や都市環境の向上のようなマクロなスケールに分けられる。これら2つの異なる次元における環境デザインを、一貫性・合理性を持ち、両輪で統合する。

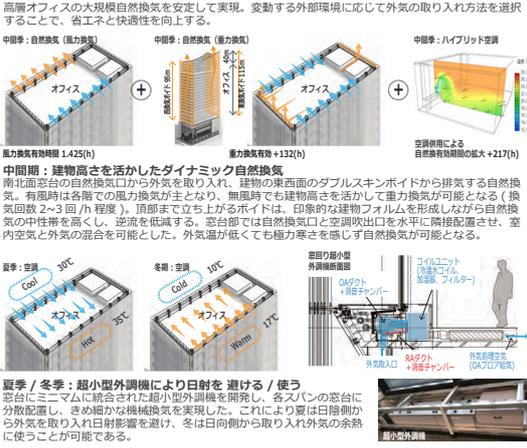
## 離散型ルーバーによる『光のカーテン』 光と眺望への開放



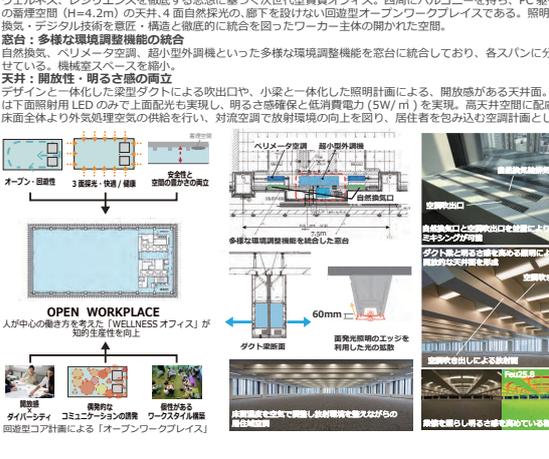
## 地上100mの Biophilic Design Office 生態系への開放



## 呼吸する超高層 - 外部環境に呼応し、風を導く 外気への開放



## 働く人のための「オープンワークプレイス」 執務空間の開放



## 「開かれた美術館」のための環境デザイン 美術館空間の開放



項目	内容	備考
建築種別	複合施設	
用途	賃貸オフィス、美術館	
所在地	東京都中央区京橋1-7-2	
敷地面積	2,813.74㎡	
建築面積	2,212.83㎡	
延床面積	14,829.51㎡	
高さ	149.56m	
構造	RC造	
完成予定	2024年	

**建築概要**

所在地 東京都中央区京橋1-7-2  
 都市計画 都市再生特別地区  
 用途 複合施設  
 階数 地上23F・地下2F・塔屋2F  
 延床面積 78,656㎡ (許容90%)  
 容積率 1,296.05% (許容1300%)  
 敷地面積 2,813.74㎡  
 建築面積 2,212.83㎡  
 延床面積 14,829.51㎡  
 構造 S造・一部RC造 (免震構造)